市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	商工観光産業支援偉業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－３－(2)－オ 産業間連携の強化
担当部課名	総合推進室	事業実施（予定）年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	伊平屋島の安住を支える重要な産業である観光を振興するため、島内サービス産業の支援強化や、各種イベントの開発能力の向上を図る。それにより、リピーター及び新規顧客の獲得による観光消費額の増大を目指す。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	969	13,447	10,211		
	(b) 予算現額	969	12,101	10,211		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,346	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	969	12,101	10,211		
	B. 執行済額	969	3,777	8,996		
	うち交付金充当額	775	3,021	7,196		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	31.2%	88%		
予算の状況の説明		当初、3名の雇用を想定しハローワーク等で村内外に広く募集をかけたものの、2名(内1名27年2月離職)の雇用に留まり、執行減となった				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
・観光推進委員会設立	目　標	（　設立運営　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	設立運営			
・観光推進委員会職員の雇用	目　標	（　雇用　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1人			
・視察研修	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	年2回			
・業務調整	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	年12回			
・人材育成講座	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	年3回 5，000部			

達成状況説明

観光推進委員会設立より一歩踏み込んだ「観光協会」を次年度設立する協議を行った。また、観光推進委員会の職員は当初、2名雇用で運営していたものの、27年2月に一身上の都合により、1名離村することになり、当初目標の3名雇用が最終的に1名雇用となった。
視察研修に際し、隣村で文化・風土も近い伊是名村と離島市の離島である池間島での視察研修や意見交換を実施し、同規模の市町村の取組を視察した。
観光推進委員会、商工会、行政の月に一度「パワーランチ」を開催し、村内外の様々なイベント情報を共有し、スムーズな修学旅行、民泊体験の受け入れを実施した。
SNS活用方法説明会、料理講習会、食中毒講習会を開催し、郷土料理等を受入民家に普及する料理講習会を受入民家の要望で開催した。そのため当初目標にしていた回数を上回った。総じて、観光推進委員会で受入に携わった入村者数は464名となった

成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（ 年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（ 年度）
	・観光推進委員会設立	目 標	（ ）	（ 設立 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		設立運営			
	・観光推進委員会職員の雇用	目 標	（ ）	（ 雇用 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		1人			
	・視察研修	目 標	（ ）	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		年2回			
	・業務調整	目 標	（ ）	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		年12回			
	・人材育成講座	目 標	（ ）	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		年3回 5，000部			
	【参考指標】	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					

進捗状況説明

観光推進委員会設立より一歩踏み込んだ「観光協会」を次年度設立する協議を行った。また、観光推進委員会の職員は当初、2名雇用で運営していたものの、27年2月に一身上の都合により、1名離村することになり、当初目標の3名雇用が最終的に1名雇用となった。
視察研修に際し、宮古島市（池間島）での視察研修や意見交換を実施し、同規模の市町村の取組を視察した。
観光推進委員会、商工会、行政の月に一度「パワーランチ」を開催し、村内外の様々なイベント情報を共有し、スムーズな修学旅行、民泊体験の受入を実施した。
SNS活用方法説明会、料理講習会、食中毒講習会を開催し、郷土料理等を受入民家に普及する取組を実施した。
今後は、職員の定着に向けて賃金形態を見直す必要がある。.

取組の検証

推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
本村の入域観光客数は平成13年の21,000人を境に減少傾向にある。他方、県内の入域観光客数は増加の一途を辿っており、観光客による購買、宿泊による恩恵を受けていない状況が見られる。そこで来島する観光客を誘引させるため、観光に特化した団体を設立する必要があり、この度「観光推進委員会」の設立を実施した。 上記組織を運営するに当たって、職員を県内、村内に広く公募したものの、賃金の問題、とりわけ村外から求職を求める方にミスマッチが生じ、職員の定着化が図れず、安定した組織運営、個人・団体の観光客受入に課題が残った。	今後は、賃金形態を見直し、安定した組織運営を図ると共に、「観光推進委員会」からより実効性・即効性・独立性の高い「観光協会」へ変容する必要がある。

今後の取り組み方針

次年度は「観光協会」設立による島外への集客誘致活動も新たな試みとして取組むと同時に、受入側スタッフ、受入民家の充実拡充に取り組む。
更に、「沖縄県体験型観光推進協議会」と連携した組織充実を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,829	8,996	7,196	1,800	7,833

伊平屋村 8,996千円 → 補助金 8,996千円 → 伊平屋村商工会 総額：8,996千円

（会議等開催費：100千円
調査・研究費：962千円
集客誘致活動費：1,499千円
推進職員設置費：5,619千円
人材育成事業費：816千円）

（商工会補助金(交付対象外経費)：7,833千円
※内、受益者負担金：1,935千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は「観光推進委員会」の上部団体である「商工会」であるため適正である。 ○予算規模は事業概要を精査し適正である ○受益者負担は総事業費の12%あるため妥当である ○費目・使途が事業目的に即しており、真に必要と考える
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－②	観光地イメージアップ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など観光客が利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	15,650	13,084	18,630		
	(b) 予算現額	15,612	13,084	13,379		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 38	0	▲ 5,251		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	15,612	13,084	13,379		
	B. 執行済額	15,612	13,084	13,133		
	うち交付金充当額	12,489	10,467	10,506		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98%		
予算の状況の説明		台風等による被害が少なかったため、予算の不用額が生じたが、当初計画していた事業内容は、全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光美化作業員16名	目　標	（　29．5Km　）	（　29．5km　）	（　16名　）	（　　）
	実　績	29．5Km	29．5km	16名	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：本事業の実施により、村内の各名勝、旧跡、観光施設等の維持が図られ、観光地としてのイメージアップも図られている。また、同事業による地元貢献や雇用の面（16名雇用）からも効果がでている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業　5カ所	目　標	（　　）	（　29．5Km　）	（　29．5km　）	（29．5 km　5カ所）	（　　）
	実　績		29．5Km	29．5km	29．5km 5カ所	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：本事業の実施により、村内の各名勝、旧跡、観光施設等（5カ所）の維持管理が図られ、観光地としてのイメージアップも図られている。また、同事業による地元貢献や雇用の面からも効果がでていることから妥当であると考える。

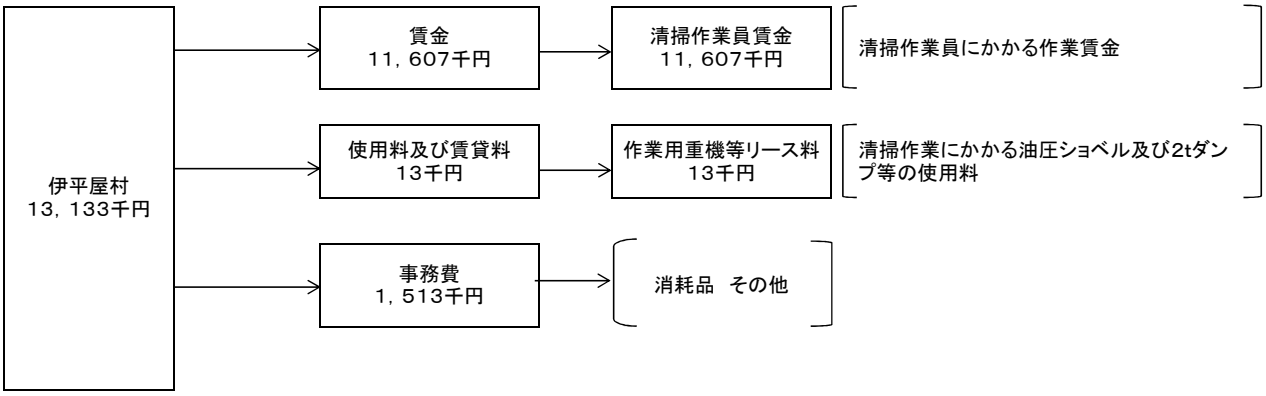
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度は、主にアクセス道路や、観光施設等の清掃、草刈り等が主な業務であった。それについては、村民や観光客等からの反応も上向きである。しかし、各施設における美化整備については、人手不足等の問題もあり遅れているじょうきょうである。これからは、そのような施設の美的環境の整備にもリンクする形で植栽やそれらの維持等も行っていく必要がある。	同事業の継続により、島の景観等に対する村民の意識の向上が図られることや、産業の乏しい離島村の雇用等の創出についても大きく寄与すると思量される。

今後の取り組み方針

同事業の継続により、島の景観等に対する村民の意識の向上が図られることや、産業の乏しい離島村の雇用等の創出についても大きく寄与すると思量されることから事業を継続し、島の進行発展につなげていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,133	13,133	10,506	2,627	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・本事業における清掃作業員の雇用等については、村内における失業者を対象として募集していることで、村経済の活・性化の観点から大きく寄与している。 ・観光シーズンを中心複数回作業を行う事及び労務による作業が中心であることから予算規模は適正である。 ・本事業で備品購入している作業用機械等については、各メーカー使用において配慮等がなされていることから5社以上のものから見積書を徴し契約にいたっていることで妥当であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－③	誘客イベント推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	総合推進室	事業実施（予定）年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用した、イベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、伊平屋村の認知度を高め、入域観光客数の増加を目指す。				
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　■負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,610	21,240	23,108		
	(b) 予算現額	17,194	23,192	15,330		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 10,416	1,952	▲ 7,778		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	17,194	23,192	15,330		
B. 執行済額		15,883	23,192	15330		
うち交付金充当額		12,706	18,553	12264		
次年度繰越額		0	0	－		
執行率（%）（B/A）		92.4%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		村内外で実施するイベントの運営する委託費、補助金、負担金とりわけ村の1大イベントである「第20回伊平屋ムーンライトマラソン」は記念大会と言うことも有り準備、取り組んでいたものの、台風19号襲来に於いてフェリーが欠航となり、やむなく中止となったため、予算残執行が困難となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
ウェルカムイベント	目　標	（ 2,400人 ）	（ 2,424人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	3,030人	3,218人	実施	
特産品フェア	目　標	（ 来場者平均5000人 ）	（ 来場者平均5000人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	5,500人	7,366人	実施	
キャンプツアー	目　標	（ 80人 ）	（ 80人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	46人	79人	実施	
沖釣り大会	目　標	（ 30人 ）	（ 30人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	21人	28人	実施	
登山ツアー	目　標	（ 30人 ）	（ 30人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	21人	23人	中止	
イルミネーション	目　標	（ 2,100人 ）	（ 2,121人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	2,640人	2,350人	実施	
離島フェア芸能団派遣	目　標	（ 来場者112000人 ）	（ 来場者113120人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	148,685人	139,922人	実施	
サッカー交流事業	目　標	（ 39人 ）	（ 40人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	49人	96人	中止	
いへやまつり	目　標	（ 1,200人 ）	（ 1,200人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	1,750人	1,400人	実施	
ムーンライトマラソン	目　標	（ 1,200人 ）	（ 1,200人 ）	（ 実施 ）	（ ）
	実　績	1,234人	1,243人	中止	

三村交流	目　標	（　　ー　　）	（　500人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績	ー	700人	実施	

達成状況説明	本年度、村内外に於いて11イベントを計画し、実施を試みた。しかしながら台風19号の襲来により「第20回伊平屋ムーンライトマラソン」の中止、海路の安定運航を理由に、本土生徒を招いて実施する「サッカー交流会」の中止の申し出等苦戦を強いられた。他方、「登山ツアー」のように中止としたものの、同じような地域資源を活用した「トレイルランニング大会」のモニターレースが執り行われ、新たな、、観光資源の活用方法を芽出しすることが出来た。又、本村から本島に赴いて実施するイベントは軒並み実施することが出来、観光パンフレット等の配布が可能になり、村への誘客や認知度向上に寄与した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
ウェルカムイベント	目　標	（　　）	（　2,400人　）	（　2,424人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		3,030人	3,218人	実施	
特産品フェア	目　標	（　　）	（　来場者平均5000人　）	（　来場者平均5000人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		5,500人	7,366人	実施	
キャンプツアー	目　標	（　　）	（　80人　）	（　80人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		46人	79人	実施	
沖釣り大会	目　標	（　　）	（　30人　）	（　30人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		21人	28人	実施	
登山ツアー	目　標	（　　）	（　30人　）	（　30人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		21人	23人	中止	
イルミネーション	目　標	（　　）	（　2,100人　）	（　2,121人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		2,640人	2,350人	実施	
離島フェア芸能団派遣	目　標	（　　）	（　来場者112000人　）	（　来場者113120人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		148,685人	139,922人	実施	
サッカー交流事業	目　標	（　　）	（　39人　）	（　40人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		49人	96人	中止	
いへやまつり	目　標	（　　）	（　1,200人　）	（　1,200人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		1,750人	1,400人	実施	
ムーンライトマラソン	目　標	（　　）	（　1,200人　）	（　1,200人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		1,234人	1,243人	中止	
三村交流	目　標	（　　）	（　ー　）	（　500人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		ー	700人	実施	
かかし祭り	目　標	（　　）	（　2,400人　）	（　2,424人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		3,030人	3,218人	実施	
人看板展	目　標	（　　）	（　2,400人　）	（　2,424人　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		3,030人	3,218人	実施	
ビーチ&トレイルランニング	目　標	（　　）	（　ー　）	（　ー　）	（　実施　）	（　　）
	実　績		ー	ー	実施	
時実施によるイベントに係る入域観光客数の増 H25年度4000人→H26年度4500人程度	目　標	（　　）	（　ー　）	（　ー　）	（　4500人　）	（　　）
	実　績		ー	ー	3,327人	

進捗状況説明	本年度、村内外に於いて11イベントを計画し、13事業の実施を試みた。しかしながら台風19号の襲来により「第20回伊平屋ムーンライトマラソン」の中止、海路の安定運航を理由に、本土生徒を招いて実施する「サッカー交流会」の中止の申し出等苦戦を強いられた。他方、「登山ツアー」のように中止としたものの、同じような地域資源を活用した「トレイルランニング大会」のモニターレースが執り行われ、新たな、、観光資源の活用方法を芽出しすることが出来た。又、本村から本島に赴いて実施するイベントは軒並み実施することが出来、観光パンフレット等の配布が可能になり、村への誘客や認知度向上に寄与した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・冬期の入域観光客数のテコ入れを強力に推進するため、冬場のイベントを多く入れているものの、ムーンライトマラソン中止の影響から軒並み冬場のイベントが中止等の憂き目に遭った。10月以降のイベントは開催時期を再度検討するよう働きかける必要がある。	ムーンライトマラソン実行委員会において新たな開催時期を検討する。但し、11月は「ツールド沖縄」「離島フェア」等定例化しているイベントもあるため、調整に十分配慮が必要となる。

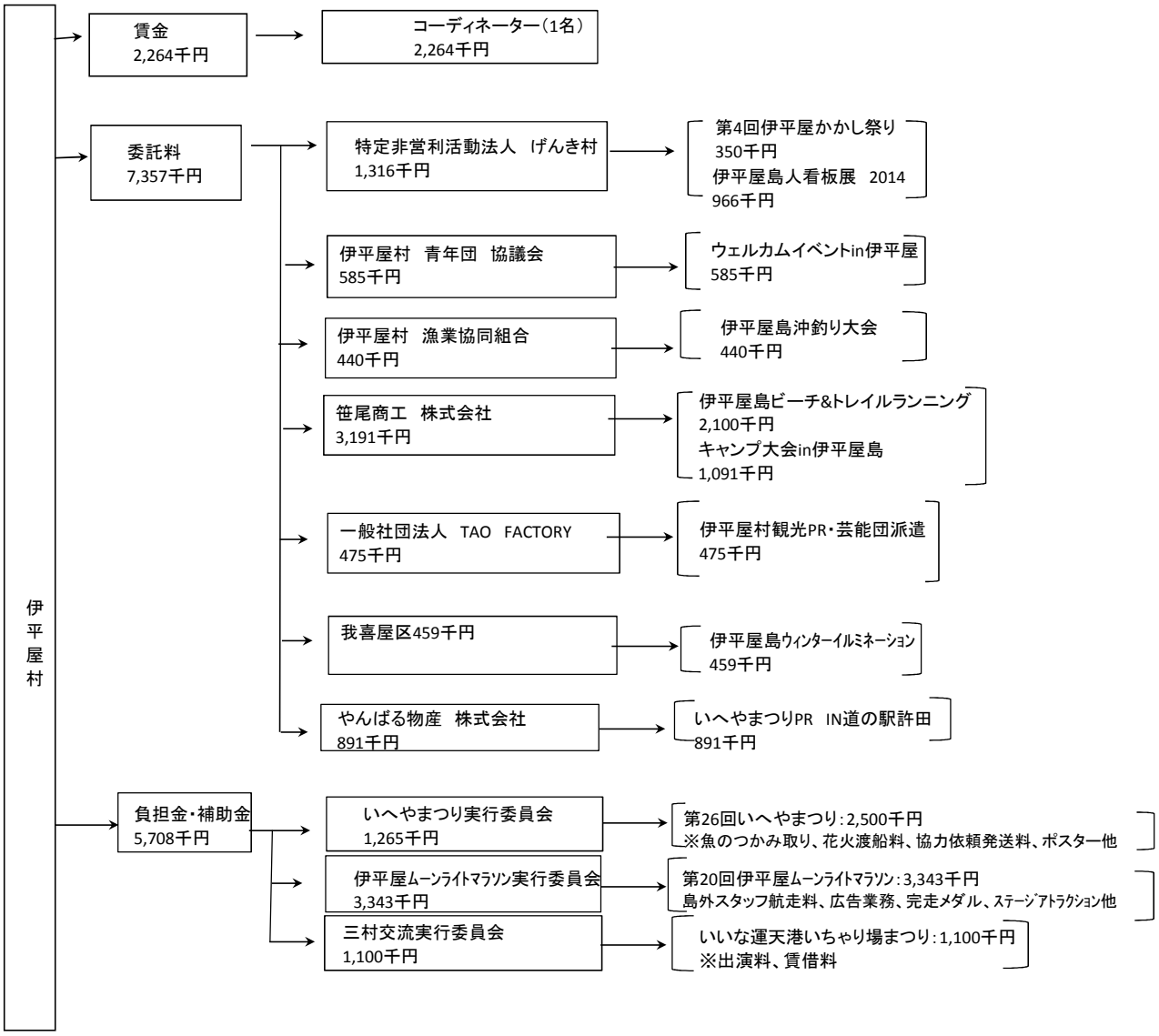
今後の取り組み方針

・冬期イベントの開催日時の再確認。他市町村のイベントと重複しないような情報整理

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金	市町村	交付対象外経費
15,330	15,330	12,264	3,066	



	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業は、村の地場産業の育成並びに、村特有の観光資源を鑑み選定しているため、妥当と考える 予算規模は事業内容を鑑みて記載な規模と考える 受益者との負担関係は補助金以外にも、予算を充当し妥当と考える 使途に関しては事業目的に即し真に必要なものと考える
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－④	伊平屋村イメージキャラクター開発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア 観光リゾート産業の振興
担当部課名	総合推進室	事業実施（予定）年度	平成２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	村内の小学生を対象に制作企画をして頂き、現役芸大生、教授と共同で村マスコットキャラクターを制作する				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,495				
	(b) 予算現額	1,417				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 78				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,417				
B. 執行済額		1,417				
うち交付金充当額		1,133				
次年度繰越額		－				
執行率 （%） (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業総額予算執行は概ね達成した。村内での告知、学校側の協力等がスムーズに進んだ原因と考えられる。理由として村内小学校の授業に組み込んで頂き、主体的に授業の中で取り組んで頂き、全児童のデータから30枚程度選定し、その後「第2回いへやまつり」に於いて来場者に投票をして頂き、5体に選定。その後、観光審議会で協議し、更に村内在住の小中学校の児童生徒に投票し、デザインを委託業者により具現化した				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
・予備調査 ・調査・村内児童生徒との顔合わせ ・レイアウト ・審査決定、、企画 ・専門業者にて制作 ・完成	目　標	（　一体　）	（　）		（　）
	実　績	一体			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	村内児童に公募を行い、自分たちでイメージしたイメージキャラクターを村まつりで投票で5位まで選定。その後、芸大生、教授にブラッシュアップして頂き、更に観光審議会で協議を行い、一体に決定し、制作を実施した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
・イメージキャラクター完成	目　標	（　）	（　一体　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		一体			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	村内児童に公募を行い、自分たちでイメージしたイメージキャラクターを村まつりで投票で5位まで選定。その後、芸大生、教授にブラッシュアップして頂き、更に観光審議会で協議を行い、一体に決定し、制作を実施した。					

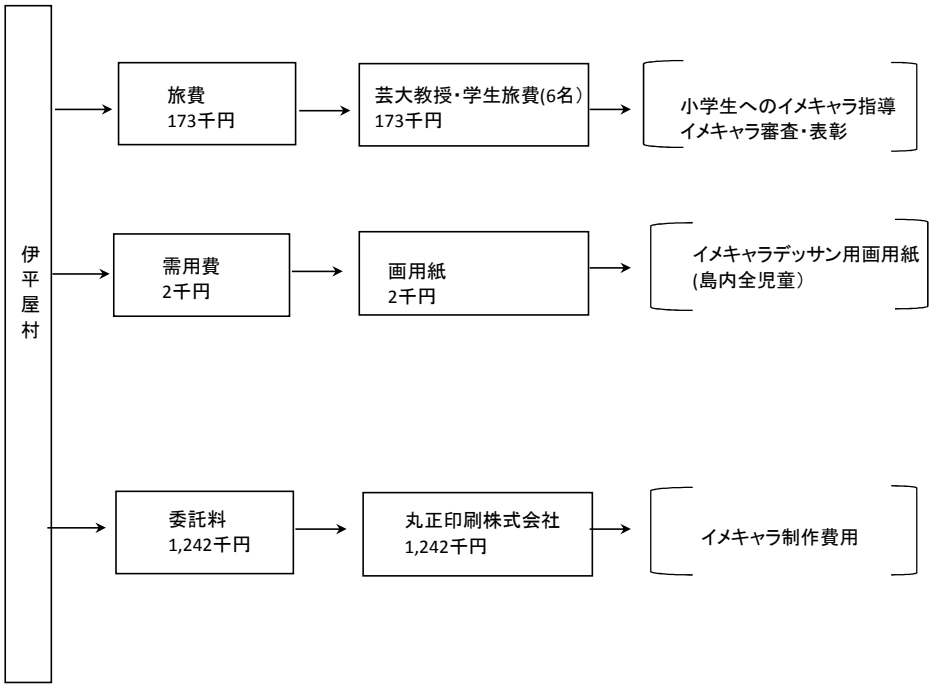
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村内を代表するマスコットキャラクターが不存在であった。そこで村内の小学生の自由発想で「伊平屋村」といえばというテーマに村内特産品から連想したイメキャライメージを学校の授業の中で抽出して頂き、その後芸大教授がマスコットとして活用できる素材をピックアップその後、「第26回いへやまつり」に於いてまつり来場者に投票して頂き5体に抽出。その後、観光審議会に於いて、協議、村内児童生徒にアンケート実施し、1体に決定後、制作を行った。 ・審議会に於いて協議したものの、どの作品も甲乙付けがたく、アンケート調査を実施したため、手順としては一手順増えた。	・最終的に一体に決定してマスコットを制作したものの、他の甲乙付けがたく、村のノベルティーグッズに活用できないか検討し、観光PRアイテムとしてはもとより、村内児童にも達成感を持たす取組を行う。

今後の取り組み方針

村内外でのイベント（住民検診・まつり・マラソン・離島フェア等）活用

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,417	1,417	1,133	284	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	県内で取扱実績のある事業者に見積もり依頼を行ったので妥当であると考える 予算規模は事業内容に見合うものと考える 費用・使途が事業目的に即し必要なものに限定されている
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑤	海浜公園植栽等整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～平成28年度		観光客の受入体制の整備
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	沖縄らしい原風景の創出と安心、安全で利便性、快適性の高い観光地づくりを目指し、台風や塩害に強く、緑陰機能に優れた在来樹種への植栽転換を実施する。また、ハブ対策として防蛇網の整備を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度（24繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,839	－	16,500		
	(b) 予算現額	16,239	－	8,620		
	(c) 増減額 (b−a)	▲ 9,600	－	▲ 7,880		
	(d) 前年度繰越額	－	16,239	0		
	A. 計 (b+d)	16,239	16,239	8,620		
	B. 執行済額	16,239	16,239	8,532		
	うち交付金充当額	12,991	12,991	6,825		
次年度繰越額		16,239	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	99.0%		
予算の状況の説明		事業箇所は、砂嘴で形成された場所であることから、塩害に強い樹木を植栽することにしているが、導入する樹木の苗木の県内ストックが少なく、今年度の予定数量確保が困難となったため、施工量を調整して発注した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	年度
平成26年度：緑陰植物植栽整備（南側）	目　標	（　整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	355㎡			

達成状況説明：喪失した緑陰機能の回復とあわせ在来樹種による海浜景観の復元であったため、苗木の生産状況及びストック状況の確認を行った結果、県内でのストック量が少なく施工量の調整を余儀なくされたが、計画に沿った施工ができ、海浜公園の緑陰機能回復に寄与した。
また、計画継続でH27年度も引き続き工事を実施する。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
平成26年度：緑陰植物植栽整備（南側）の完了	目　標	（　）	（整備の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		整備の完了			

進捗状況説明：園内の植栽により、木々の生長とともに公園内の防風効果が発揮され、園内利用者に大きく寄与できる。
また、植栽帯の設置を行い海浜景観の修景対策をする事ができ、緑陰機能に優れた沖縄らしい風景を創造でき快適な観光地作りができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	住民自らの力で島内の緑化、景観保全活動を行っていくためにも、在来種を選定し、村内老人会や婦人会の協力を仰ぎながら地元で生産を行いながら事業展開を行い、当事業の延長上で、村内の防潮・暴風林の復元等原風景の回復を目的とするが、樹種の生産ノウハウ等を専門家の指導を受けながら進める必要がある。 また、島周辺海域の景観復元や集落内の緑化等の事業への展開も検討する必要がある。	島内外の連携による樹木の生産を行い、在来種で安易に確保でき、管理のしやすい苗木の確保を考慮しなければならない。

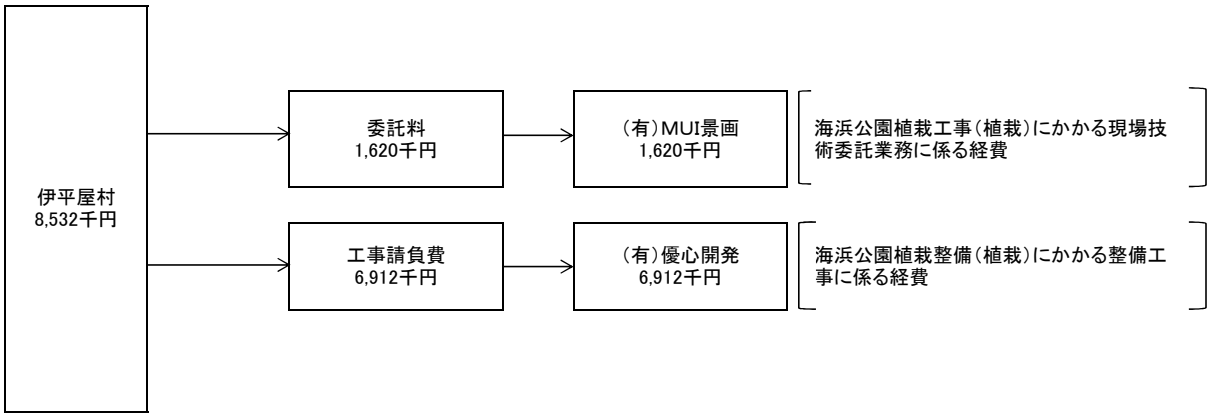
今後の取り組み方針

平成26年度において、海浜公園の東側及び北側の植栽を行い、平成27年度では本施設の入口となる西側の暴風対策を考慮した緑陰植物の植栽をする事で、沖縄らしい風景を創造し、緑陰機能に優れ、安心安全で快適な観光地づくりを目指す。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,532	8,532	6,825	1,707	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託、請負ともに指名競争入札により発注を行った。 △予算規模は当初、導入予定の苗木の確保が困難となったことにより減額となったが、導入可能数量に見合った適正な規模である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	堆肥利用促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ 農林水産物の安全・安心の確立
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	H25～H26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	
事業内容	堆肥の利用促進による地力向上と減農薬化による農産物のブランド化を目指し、既存の堆肥生産施設の機能強化を実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況 (a) 当初予算額	21,356	20,300			
予算の状況 (b) 予算現額	2,000	13,501			
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	▲ 19,356	▲ 6,799			
予算の状況 (d) 繰越額	－	－			
予算の状況 A. 計 (b+d)	2,000	13,501			
B. 執行済額	2,000	13,500			
うち交付金充当額	1,600	10,800			
次年度繰越額	0	0			
執行率（%）(B/A)	100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：当初計画の見積価格より安価な価格での機械購入が出来た為、予算残については補正による減額。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
堆肥センターの機能強化及び製造機械の更新等	目　標	（　1台　）	（　機能強化　）	（　）	（　）
	実　績	－	堆肥攪拌機の購入		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：堆肥攪拌機を1台を購入することにより、堆肥センター機能強化を図ることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（33年度）
堆肥センター機能強化及び更新等の完了	目　標	（　2.2t　）	（　3.5t　）	（　強化等の完了　）	（　）	（　4.0t　）
	実　績		2.8t	堆肥い攪拌機の購入		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：堆肥攪拌機の購入により目標を達成することが出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・堆肥攪拌機の購入をすることが出来たが、現在の村内畜産生産農家飼養頭数では、年間に必要な堆肥原料の絶対量が不足している。	・堆肥原料の不足については、島外から不足分の堆肥の購入等が必要となる。

今後の取り組み方針

今後は、堆肥センター指定管理委託を行い、安定的な堆肥の製造に努めると同時に、農地への還元による土づくりを推進し、農産物の反収及び農家所得の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,500	13,500	10,800	2,700	

伊平屋村
13，500千円

備品購入費
13，500千円

キャタピラーイーストジャパン（株）
13，500千円

・ホイールローダ（攪拌バケット付）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約理由については、本村入札参加資格申請より、参加資格者を選抜したところ、本機種に対応できるメーカー及び販売業の申請が無く、指名競争入札に資することが困難であったため、見積入札による随意契約を実施した。 ○予算規模は事業内容に見合うものであると考える。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	病害虫防除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章―3―(7)―ウ 農林水産物の安全・安心の確立
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成２４～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	
事業内容	作物の生産性の向上と農家所得の向上を目指し、さとうきびの収量低下の原因となっている病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	10,750	8,160		
	(b) 予算現額	1,600	10,164	8,100		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,400	▲ 586	▲ 60		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,600	10,164	8,100		
B. 執行済額		1,600	10,164	8,100		
うち交付金充当額		1,280	8,131	6,480		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		不用額が60千円発生しているが、病害虫誘殺灯費となっており、沖縄県が実施しているため不用となったものであり、当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であると考える。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
防虫剤（フェロモン剤）散布：150ha	目　標	（149ha）	（150ha）	（150ha）	（　）
	実　績	149ha	150ha	150ha	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	フェロモンチューブの設置交信かく乱によるさとうきび病害虫（イネヨトウ）被害の軽減及び個体数の減少が図れた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
病害虫の防除等によるサトウキビ生産量の安定化　H23年度　1,758t　→ H26年度 2,700t	目　標	（1,758t）	（4,000t）	（4,700t）	（2,700t）	（4,000t）
	実　績		2,373t	1,985t	3,441t	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	フェロモンチューブの設置によるさとうきび被害の減少及びさとうきび生産量の増加が図れた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・フェロモンチューブ剤は直接病害虫を誘殺するものではなく、交信かく乱を行う物の為、持続的な実施が必要となる。また、フェロモンチューブ剤の設置が出来ない台風時期は生産農家による防除が不可欠となる。	・持続的な実施による長期的な交信かく乱の実施を行うほか、生産農家への防除の呼びかけ及び指導を行い、生産性の向上を図る。

今後の取り組み方針

フェロモンチューブ剤は直接病害虫（イネヨトウ）の個体数を減少させるものではないため、継続的な実施及びさとうきび生産農家への防除の呼びかけ、指導を行い、病害虫（イネヨトウ）の発生を予防し、さとうきび生産量及び農家所得の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,100	8,100	6,480	1,620	

伊平屋村
8，100千円

委託費
8，100千円

沖縄県農業協同組合
伊平屋支店
8，100千円

伊平屋村イネヨトウ交信かく乱委託

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、さとうきび生産農家と最も関わりの大きいJA伊平屋支店を選定した。 ○予算規模については事業内容に見合うものと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○受益者との負担関係については、防除剤設置作業を生産農家の協力により実施しているため、負担を無しとしている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	干ばつ対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章―3―(7)―カ 亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―1―(6)

事業内容

夏場や作付け時期となる秋期・春期の水不足に対応するため、作業効率の高いマリンタンクの設置と送水ポンプを設置し、生産性の効率化と農家所得の向上を目指す。また、近年、慢性化する干ばつに対応するため、小規模ため池等、水源地確保を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
予算の状況	(a) 当初予算額	15,000	8,000	―	12,299	
	(b) 予算現額	2,257	17,903	―	17,632	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 12,743	9,903	―	5,333	
	(d) 繰越額	―	―	11,637	―	
	A. 計 (b+d)	2,257	20,160	11,637	17,632	
	B. 執行済額	2,257	6,266	11,635	16,848	
	うち交付金充当額	1,806	5,012	9,308	13,478	
次年度繰越額		0	11,637	0	0	
執行率 （%） (B/A)		100.0%	31.1%	100.0%	95.6%	

予算の状況の説明：平成26年度は配水管路及び配水ポンプを4基整備。また、排水路工事の見直しにより工事予算を増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
マリンタンク設置及び配管工事（L＝2000m）送水ポンプ一式の完成	目　標	実施設計 （ マリンタンク　小3基 配管　2,000m ）	マリンタンク　小3基 （　　） 配管　2,000m	配管　2,000m （ 送水ポンプ一式 整備 ）	（　　）
	実　績	実施設計	マリンタンク　小4基 配管　1233m	配管　2,406m 送水ポンプ一式 整備完了	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：当初配管延長2,000mを整備する事としていたが、管の敷設を見直した事により、2,406mと送水ポンプ4基整備を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
マリンタンク設置及び配管工事（L＝2000m）送水ポンプ一式	目　標	（　　）	（ 実施設計 マリンタンク　小3基 配管　2,000m ）	（ マリンタンク　小3基 配管　2,000m ）	（ 配管　2,000m 送水ポンプ一式 ）	（ 供用開始 ）
	実　績		実施設計	マリンタンク　小4基 配管1223m	配管　2,406m 送水ポンプ一式	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：平成26年度は配管整備2,406m及び送水ポンプ4基整備を行い。平成26年度3月末でに完了し、夏場や作付け時期となる終期・春期の水不足に対応し、稼働できるようになった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村の基幹作物である米やさとうきびに加え、新たな基幹作物として玉葱、甘しょ、ジャガイモ等の根菜類は地力低下による連作障害や干ばつによる影響が受けやすく、単収率や品質低下によって、農家の生産意欲の低下を誘発していることから、抜本的な対策強化が求められていることから、本事業により、夏場や作付け時期となる終期・春期の水不足に対応する為、マリンタンク等の施設整備を行った。 施設整備の完了により、近年慢性化している干ばつに対応できるようになった。	施設整備の完了したことで、干ばつ期における灌水の実施により、農作物の安定的な品質及び収量の確保、生産農家の意欲向上や所得向上を図る。

今後の取り組み方針

・気象状況を把握したうえで、夏場や作付け時期となる終期及び春期の水不足に本事業整備した施設等の活用し、生産性の効率化と農家所得の向上を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

平成26年度

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,848	16,848	13,478	3,370	

伊平屋村
16，848千円

→ 工事請負費
16，848千円

→ （有）伊平屋興業
16，848千円

（平成26年度かんがい施設設置工事（野甫地区））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であると考える。 ○予算規模については、不用額が5%以下である為、適正な規模であったと考える。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	特産品等販路拡大推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章―3―（7）―イ 流通・販売・加工対策の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（6）
事業内容	島で生産されるモズクや黒糖関連商品、魚類燻製製商品やその他加工品の販路拡大を目指し、島外での販売促進やイベント等への出店を支援する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,686	10,900	7,632		
	(b) 予算現額	7,666	10,013	3,056		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 20	▲ 887	▲ 4,576		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	7,666	10,013	3,056		
B. 執行済額		7,666	9,682	3,023		
うち交付金充当額		6,133	7,745	2,418		
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	96.7%	99%		
予算の状況の説明		当初において、県外イベントを3回計画していたが、関連企業との調整が付かず、県外イベント1回及び島外イベント1回実施した。 また、不用額4，576千円については県外イベント不参加による旅費となる。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
島外（県外）イベント出店参加：3回	目　標	（　3回　）	（　3回　）	（　3回　）	（　　）
	実　績	3回	4回	2回	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	・島外（県外）イベント出店参加は2回であり、活動目標は達成できなかったが、県外イベント（新潟）への参加及び島外イベント1回の実施により、県内外企業への販路拡大に繋がった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（30年度）
島外イベントによる商談等：3回	目　標	（　　）	（　3回　）	（　3回　）	（　3回　）	（　2回　）
	実　績		3回	4回	2回	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	関連業者との調整が付かず、県外イベント（千葉・埼玉）へは不参加となったが、県外イベント（新潟）への参加及び島外イベントの実施により県内外企業への販路拡大に繋がった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県外、島外イベントへの参加及び実施に伴い、県内外企業での販路の確保、需要向上を図ることができたが、原料の安定生産、確保を長期的に計画し、需要への対応を改善していく必要がある。	・農家及び漁家の意識の改善と営農計画等の見直し、安定生産による活性化を図る。

今後の取り組み方針

島外イベントへの参加及び実施を行い、関連商品のPR、販路拡大を図る。また、商品の開発にも取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,023	3,023	2,418	605	

伊平屋村
3，023千円

- 旅費
  2，572千円
  （県外イベント参加旅費
  新潟　2，572千円　23名分）
- 報償費
  252千円
  （県外イベント参加に係る報償費
  イベントアトラクション（エイサー）参加者
  12名分）
- 事務費
  199千円
  （県内外イベント参加に係る経費）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、事業内容と見合っており、妥当であると考える。 ○予算規模については、事業内容と見合うものと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑤	輪作・転作等促進農業用排水施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ 亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	伊平屋村農林水産課	事業実施（予定）年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	

事業内容	台風等の風災害により、減少した2期作農家を支援するため、輪作・転作が可能な水田排水施設の整備を行う。また、輪作・転作による農家主体の集団営農化を目指し課題の抽出と行動計画を定めた事業推進計画を策定する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	1,700			
	(b) 予算現額	2,679	1,620			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 321	▲ 80			
	(d) 前年度繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	2,679	1,620			
B. 執行済額		2,679	1,620			
うち交付金充当額		2,143	1.296			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画の見積価格より安価な価格での委託発注が出来た。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	年度
水田の輪作・転作対応工事設計 輪作・転作対応配水工事（2ha）	目　標	（　策定業務　）	（工事設計 配水工事 （2ha）の完了）	（　）	（　）
	実　績	策定業務	工事設計の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	当初計画では、水田の輪作・転作対応工事設計と配水工事を予定していたが、農家との調整に時間を要するため、事業計画を見直し、今年度は工事の設計のみを行い、工事は次年度以降で実施する。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（27年度）
水田の輪作・転作対応工事設計の完了 輪作・転作対応配水工事（2ha）の完了	目　標	（　）	（策定業務）	（工事設計の完了 配水工事（2ha） の完了）	（　）	（　）
	実　績		策定業務	工事設計の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	当初計画では、水田の輪作・転作対応工事設計と配水工事を予定していたが、農家との調整に時間を要するため、事業計画を見直し、今年度は工事の設計のみを行い、工事は次年度以降で実施する。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	農家の高齢化及び後継者不足による農業の衰退が懸念される中、当計画での経営診断が出来たことで、施設園芸などによる若者の参入しやすい環境整備が促進できる。作物の多様化を促進する事により経営基盤の改善を図ることにより後継者問題等の解消が期待できる。	農家の高齢化及び後継者不足による農業の衰退が懸念される中、当計画での経営診断が出来たことで、施設園芸などによる若者の参入しやすい環境整備ができた。輪作転作作物の選定と栽培技術の指導を行い、若年者が就農に取り組みやすい環境整備を図る必要がある。

今後の取り組み方針

輪作・転作を促進するため、耕地の排水施設設計及び整備工事と合わせ、輪作・転作作物の栽培技術等の指導と、新規就農及び集落営農等を促進するための環境整備を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,620	1,620	1,296	324	0

伊平屋村
1，620千円
―
委託料
1，620千円
―
(株)経営戦略オフィス
1，620千円
（輪作・転作等促進計画策定業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑥	伊平屋村優良繁殖牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－ア 沖縄ブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	伊平屋村役場　農林水産課	事業実施（予定）年度	平成２６年～平成３０年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（6）
事業内容	本村の畜産業の振興を図るため、計画的に優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛繁殖農家へ導入費用の一部を助成することで肉用牛の増頭と飼育農家の経営安定化を取り組み推進する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,500				
	(b) 予算現額	5,250				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,250				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,250				
B. 執行済額		5,250				
うち交付金充当額		4,200				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100%				
予算の状況の説明		予算の減額は、セリにおいての優良繁殖用牛の落札価格が想定価格を下回ったため不要とした。導入頭数は当初の計画通り購入した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
優良繁殖雌牛導入頭数　15頭	目　標	（　15頭　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	15等			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：当初の計画通り年間15頭の導入をすることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（30年度）
優良繁殖雌牛の飼育頭数の増 H26年度　169頭　→　184頭	目　標	（　）	（　15頭　）	（　15頭　）	（　15頭　）	（　15頭　）
	実　績		15頭			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：自家保留を含め、本事業をフルに活用し、村の目標としている300頭に向け、基盤強化に取り組む。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	市場の価格が高騰しているため、農家負担が大きくなっている。	優良繁殖牛の価格上昇による農家負担の軽減を図るため、対象価格の上限を見直しを行う。

今後の取り組み方針

本計画の導入を確実に実施するとともに、優良子牛を保留し基盤となる牛を増やし、村の牛の基盤の確立に努めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,500	5,250	4,200	1,050	2,250

伊平屋村優良繁殖雌牛導入事業

伊平屋村優良繁殖雌牛導入事業

伊平屋村
5，250千円
→
補助金
5，250千円
→
畜産農家
総額：5250千円

（交付対象外経費：2,250千円
※内、受益者負担金：2,250千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は受益農家であり妥当である。 ○予算規模は、導入牛のセリ価格から積算しており適正である ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、社会教育の一環として伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座を実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,090	7,687	5,090		
	(b) 予算現額	1,340	16,360	4,414		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 750	8,673	▲ 676		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,340	16,360	4,414		
	B. 執行済額	1,340	15,859	4,414		
	うち交付金充当額	1,072	12,687	3,531		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100%	96.9%	100.0%		
予算の状況の説明		当初、想定していた「伝統文化学習講座」の運営に係る消耗品等の経費が減少したことから、当初予算より予算現額が減額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
伝統文化学習講座の開催：11教室／11回	目　標	（11講座（11回））	（11講座（11回））	（11講座（11回））	（　）
	実　績	16講座（11回）	15講座（11回）	13講座（11回）	
島内における伝統芸能祭の実施 伝統芸能保全活動	目　標	（　）	（　）	（実施）	（　）
	実　績			1回	

達成状況説明：毎月第3水曜日を伝統文化の日と定め、民具作りや三味線教室、方言教室等、さまざまな伝統文化、芸能に親しむための講座を13講座開講するとともに、成果発表会を開催した。また、伝統文化の保全活動を広く地域住民へ周知し、主体的な取り組みとなるよう、民俗芸能保存会を中心とした地域伝統芸能の保存継承を促進するため、島内イベントへの出演をとおし、保全活動と併せて、地域住民の島への愛着と誇りの醸成に資する取組を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
伝統文化教室の参加者数：100名	目　標	（0講座（0回））	（11講座（11回））	（11講座（100名））	（11講座（100名））	（14講座（11回））
	実　績		16講座（11回）	15講座（120名）	13講座（150名）	
伝統芸能祭等開催：H26年度島内1回	目　標	（0）	（0）	（1回）	（1回）	（　）
	実　績			1回	1回	

進捗状況説明：継続的な伝統文化活動の日の実施により、参加者数が目標を上回った。また、計画的に伝統文化保存活動実施出来たほか、成果発表として島内イベントへの出演や、伝統芸能祭を実施し、地域住民の伝統文化に対する機運の醸成に寄与できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○多様化する講座の種類や、ニーズの高い講座への講師の割り当てや人材確保が必要となっている。 ○事業効果の客観指標として、発表会やコンテストの開催等、技術向上や機運の醸成に向けた取り組みを継続的に行う必要がある。	○各講座の実施計画について講師陣と密な連携を図る必要がある。 ○さらなる人材確保に向けて実施内容や取り組みの情報発信を強化する。 ○総体的な取り組みとなるよう、ゴールイメージの共有化と地域住民を含めたキャンペーンや、イベントの企画運営を行う。

今後の取り組み方針

○今後も引き続き事業を推進し、民俗芸能保存会を中心に、伝統文化の継承、発展させるため、島内イベントでの出演機会を確保し、さらなる伝統文化の掘り起しと実践研究を図って行く。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,414	4,414	3,531	883	0

伊平屋村
4,414千円

- 報償費 → 伝統文化教室講師（伝統文化教室にかかる講師報償費（講師21名））
- 需用費 328千円 → 消耗品 328千円（伝統文化教室開催に係る消耗品）
- 使用料及び賃借料 240千円 → 施設使用料 240千円（伝統文化教室の開催に係る会場使用料）
- 補助金 2,719千円 → 芸能保存会・5集落支部 2,719千円（伝統芸能保全活動に係る運営補助金
①芸能保存会：500千円（活動補助金）
②田名支部：1,049千円（活動補助金）
③前泊支部：647千円（活動補助金）
④我喜屋支部：208千円（活動補助金）
⑤島尻支部：200千円（活動補助金）
⑥野甫支部：115千円（活動補助金）
合計：2,719千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については事業主旨に鑑み、推進基盤となる芸能保存会とその傘下の各支部に限定しており、妥当であったと考える。△予算規模は当初、想定していた伝統文化教室に係る消耗品を精選したことから減額となったが、適正な規模となっている。　○補助金に係る支出は事業執行に必要最低限な経費を助成しており、それ以外は受益者負担となっているため妥当であると考えている。 ○費目・使途については事業目的に即した経費ついて支出したことから適正であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身に付ける教育の推進
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	本事業は、各小中学校にある特別支援学級に支援員を配置し、個々にあったきめ細かい学習支援を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,348	5,022			
	(b) 予算現額	1,709	4,246			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,639	▲ 776			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	1,709	4,246			
B. 執行済額		1,709	4,246			
うち交付金充当額		1,366	3,397			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画では3名配置であったが内1名が5月中旬の配置となたったため、9月補正により事業費を減額した。事業内容については活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	年度
特別支援員の配置：3名	目　標	（　1名　）	（　3名　）	（　　）	（　　）
	実　績	2名	3名		
	目　標	（　　）	（　　）		
	実　績				
達成状況説明	島内各小中学校において特に学習支援が必要とされる児童生徒計画どおりきめ細かな支援体制が構築された。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（29年度）
児童生徒への支援（6名）	目　標	（　0名　）	（　4名　）	（　6名　）	（　　）	（　2名　）
	実　績		4名	6名		
	目　標	（　0名　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	島内各小中学校において6名の支援対象児童に対し、学習支援や生活指導を行い、発達段階に応じた指導と問題行動の抑制に努め結果、学習規律の改善に効果があった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	支援員に対する研修や指導・助言を行うとともに、学習到達度の低い児童生徒への保護者理解等、支援が必要とされる対象児童生徒の学習環境の改善強化へ向けた取り組みについて、研究授業やスクールカウンセラーと保護者を含めた就学支援委員会での検証が必要と思われる。	支援が必要な児童生徒に対応するため、保護者や学校現場との密な連携や協力体制を構築する必要があることと、多様化する特別支援、学習支援の在り方について村就学支援委員会での事業の検証を行うとともに、地域や家庭を含めた支援体制の在り方を検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

平成27年度も引き続き事業を推進し、支援が必要と思われる児童生徒に対して学校現場や専門家（スクールカウンセラー）との連携を密にし、保護者の理解、協力体制を推進するとともに、支援員の適正配置とスキル向上のための指導、助言を行い、対象児童生徒へのきめ細やかな支援を充実強化する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,482	4,246	3,397	849	236

伊平屋村
4,246千円
→
支援員賃金
4,246千円
（学習支援員の配置に係る臨時職員賃金：3名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については支援員を教員免許保有者及び同等の経験者として選定したことから妥当であったと考える。 △当初計画では3名配置であったが内1名が5月中旬に配置となったため実施額が減額し、当初の予算規模より下回ったが、予算執行については適正に執行されたと考えている。 ○受益者との負担関係においては、登下校や学校行事等の際に保護者のサポートを求めるなど連携を密にしたことから妥当であったと考える。 ○費目や使途についても事業目的に即した人件費のみの支出であることから、妥当であると考えている。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化体験する機会を与え、将来の本村及び地域社会へ貢献できる人材の育成を図る。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,450	2,450			
	(b) 予算現額	1,909	1,994			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 541	▲ 456			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	1,909	1,994			
B. 執行済額		1,402	1,470			
うち交付金充当額		1,121	1,176			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		73.4%	73.7%			
予算の状況の説明		当初、計画していたイングリッシュキャンプが、予定参加者数を下回ったため、9月補正により事業費を減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
海外短期留学（アメリカ）：3名	目　標	（　1回　）	（　3名　）	（　　）	（　　）
	実　績	1回	3名		
夏休みイングリッシュキャンプ：40名	目　標	（　1回　）	（　40名　）	（　　）	（　　）
	実　績	1回	9名		

達成状況説明	海外短期留学について、7月から8月にかけて3名の村内中学生を米国に派遣したほか、8月初旬に伊平屋イングリッシュキャンプと称した英語学習スクールを小中学生9名を対象に3日間の日程で実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
・留学終了後、ムーンライトマラソン等ボランティア協力及び実践発表会開催	目　標	（　0　）	（　1回（3名）　）	（　ボランティア協力及び実践発表会開催　）	（　　）	（　1回（3名）　）
	実　績		1回（3名）	1回（3名）		
・実践発表会などを通じた参加者の意識向上	目　標	（　0　）	（　1回（40名）　）	（　意識向上　）	（　　）	（　1回（40名）　）
	実　績		1回（17名）	1回（9名）		

進捗状況説明	・海外短期留学について選考試験を行い計画通り3名の中学生を派遣したが、ムンライトマラソンが台風により中止となったことから、ボランティアが実施出来ず、12月に開催した実戦発表会についてのみ成果を発表した。しかしながら2名の生徒は留学後英検3級を取得し、1名は準2級を受検した。 ・イングリッシュキャンプについては、夏休みに実施したが、島内行事との重複から開催期日を変更した結果、島外へ出かける児童生徒が多く計画参加者数を下回った。しかしながら、12月に開催した実戦発表会では英語での寸劇に取り組むなど、英語学習に意欲的に向き合うようになった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○海外短期留学では語学力もさることながら、海外での生活に順応出来るような精神面の強化や生活指導等を行う必要がある。 ○児童生徒の英語学習における習熟度の発表の場が、島内だけでは限定的であることから、より効果的で児童生徒の関心度や向上心を高めるような取り組み方策が必要とされる。 ○イングリッシュキャンプの実施時期が夏休みであることから、児童生徒への周知徹底と保護者への説明会を早期に行う必要がある。	○生徒への指導のあり方として学校・家庭・地域・行政が一体となった協議会の中で、学力向上や生活支援、情操教育を徹底して行う。 ○英語習熟度を高めるための実践発表会等の実施数を増やすほか、英語検定試験の受験について推奨を行う。 ○イングリッシュキャンプ参加者の増加や実施内容の充実を図るため、英語講師の獲得に向け関係機関との連携強化を行うとともに、児童生徒や保護者への呼びかけを学校現場と連携して行う。

今後の取り組み方針

○平成26年度も引き続き事業を推進し、学習規律や英語教育のさらなる充実をはかり英検3級取得者の増加を目指す。
○児童生徒の英語学習への関心度を向上させるため、英語スピーチコンテストへの参加推奨や、英会話教室への積極的な参加を促す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,983	1,470	1,176	295	512

伊平屋村
1,470千円

- 報償費 148千円 → 講師報償費 148千円（イングリッシュキャンプ開催に係る講師報償費（講師3名・補助員3名））
- 旅費 83千円 → 費用弁償 83千円（イングリッシュキャンプ開催に係る講師費用弁償（2名））
- 需要費 17千円 → 消耗品費 17千円（実践発表会用ラミネートフィルム他）
- 使用料及び賃借料 30千円 → ㈲風希ネットワーク 30千円（イングリッシュキャンプ開催に係る会場使用料
実施場所：いへや愛ランドよねざき（キャンプ場）
支出先：㈲風希ネットワーク（指定管理者））
- 委託料 1,192千円 → ㈱タイムスサービスセンター 1,192千円（海外短期留学派遣業務委託費 3名分）
  - 交付対象外経費524千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内では有人キャンプ施設が1カ所しか無く、いへや愛ランドよねざきでのイングリッシュキャンプの実施は妥当であったと考える。また、海外短期留学の委託先は豊富な業務実績と留学前後の事前、事後指導を含めた委託内容から妥当であったと考える。 △：予算については当初のイングリッシュキャンプ参加人数を確保出来ず、実施額が減額となった。 ○短期海外留学においては事業費の30%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	島発ち教育支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	15歳にして島を離れ高校へ進学する生徒への島発ち教育の一環として、自立心や社会規範の習得を目指し、職場体験学習を行う。対象は村内小学校6年生から中学3年生までとし、研修先は接遇や協調性、顧客サービス向上関連で学生向けプログラムを実施して評価の高い東京ディズニーランドとする。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,036				
	(b) 予算現額	7,952				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 84				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,952				
	B. 執行済額	9,041				
	うち交付金充当額	6,362				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		113.7%				
予算の状況の説明		当初、計画していた参加人数より児童生徒数、引率者数が増加し総事業費は増額となったが、補助対象事業費は減額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ディズニーアカデミーでの学生向け研修参加の実施	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回			
	目　標	（　82名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	84名			

達成状況説明：ディズニーアカデミーでの実施研修について、11月に引率者を含め84名の小中学生を派遣し、自ら気づき、考え、行動出来る児童生徒の育成を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（25年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
研修参加による生徒の自立心などの意識向上	目　標	（　0　）	（　意識向上　）	（　）	（　）	（　1回　）
	実　績		1回			
	目　標	（　0　）	（　）	（　）	（　）	（　1回　）
	実　績					

進捗状況説明：・ディズニーアカデミーでの研修参加により、普段の生活態度に変容が見られたほか、学習規律の向上や、学校生活における自己肯定感の向上に寄与できた。また、「自ら気づき、考え、行動する」行動規範を意識することにより、中学3年生においては中学卒業後の進路について自立的に目標を定める生徒が増え、自主学習の意欲が向上し、100%の高校進学率となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○15歳にして親元を離れ、高校進学する生徒については、発達段階の早い時期から、自立心、主体性等、基礎学力の定着とあわせ、精神面の強化も必要となることから、本事業にて「自ら気づき、考え、行動出来る」児童生徒の育成を目指し、研修会への派遣を行ったが、事前、事後の学習も含め、児童生徒の学習態度、生活態度に良い影響が発現できた。しかしながら、研修後も継続的に自己研鑽を意識し、将来目標の設定とその実現に向けた指導、助言について、客観的指標に基づくPDCAサイクルの確立や行動評価が課題となっている。	○本事業の継続的な事業効果を図るため、基礎学力の定着と連動したメンタル教育の向上を目指し、独自の評価基準とそれらを検証するための行動指標を設定し、個々の発達段階に合わせた指導助言を行っていくとともに、児童生徒への指導のあり方として学校・家庭・地域・行政が一体となった協議会の中で、学力向上や生活支援、情操教育を徹底して行う。

今後の取り組み方針

○事業効果の継続的な発現に向け、児童生徒を対象にハイパーQUアンケートを実施し、実態を把握するとともに、自己肯定感の向上に向けた指導助言を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,041	7,952	6,362	1,590	1,089

伊平屋村
7,952千円

→ 旅費 112千円 → 費用弁償 112千円
（東京ディズニーアカデミー研修会派遣に係る船運賃 84名分）

→ 委託料 7,840千円 → ㈱タイムスサービスセンター 7,952千円
（東京ディズニーアカデミー研修会実施業務委託費 84名分）
（交付対象外経費1,089千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○東京ディズニーアカデミー実施業務の委託先は豊富な業務実績と本村児童生徒の実情を把握した委託先であったことから妥当であったと考える。 △：予算については当初額より総事業費が増額となったが、対象外経費の増額であり、適正であったと考える。 ○研修以外の経費については対象外経費として一部を受益者が負担したことから妥当であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－⑤	伊平屋島起業家人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章　3-(12)-エ
担当部課名	総合推進室	事業実施（予定）年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島を支える多様な人材育成

事業内容

本村は離島村という地理的状況下、中学を卒業すると高校進学等のため、子供達は村外へと巣立っていくという必然的な状況がある。また、島の将来を担う子供達の多数は帰郷することなく島外、県外での就職等で島の産業等を活性化させる人材が少ない状況となっている。そのため、島の活性化に欠かせない人材育成を中学卒業までの間に実践及び経験等を交え島での産業発掘をテーマに起業する力を身につけさせる必要がある。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,235				
	(b) 予算現額	4,039				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 196				
	(d) 繰越額					
	A.　計 (b+d)	4,039				
	B.　執行済額	4,039				
	うち交付金充当額	3,231				
	次年度繰越額					
	執行率 （%） (B/A)	100.0%				

予算の状況の説明：概ね予算の執行には乖離無く実施することが出来た。商品開発を実施する際の日程調整が学校側授業カリキュラムとのすり合わせが学校側の理解を協力・理解を頂き予算執行が出来たことが、大きな理由の一つである。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
・予備調査 ・調査・村内生徒との顔合わせ ・調査調整 ・商品のブラッシュアップ ・企画展示及び発表	目　標	（　予備調査　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	予備調査の実施			
	目　標	（　－　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	－			

達成状況説明：村内在住の中学生が、県内企業と共同で、地域資源の掘り起こしを行い、特産品開発を実施した。実際、6品目制作し、実際、1品目は特産品として取り上げられ、メーカー商品化できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	27年度	目標値（　年度）
・3種類程度の特産品開発	目　標	（　－　）	（　3種　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		1種			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：パッケージの制作は県立芸術大学デザイン学科教授並びに学生の協力を仰ぎ、商品開発は企画商談から原価計算、味のアンケート調査等多岐にわたり、県内企業の協力を得ながら、商品開発を実施したが、目標は未達成である。なお。県庁においてのプレスリリースを実施し、販促を行った。

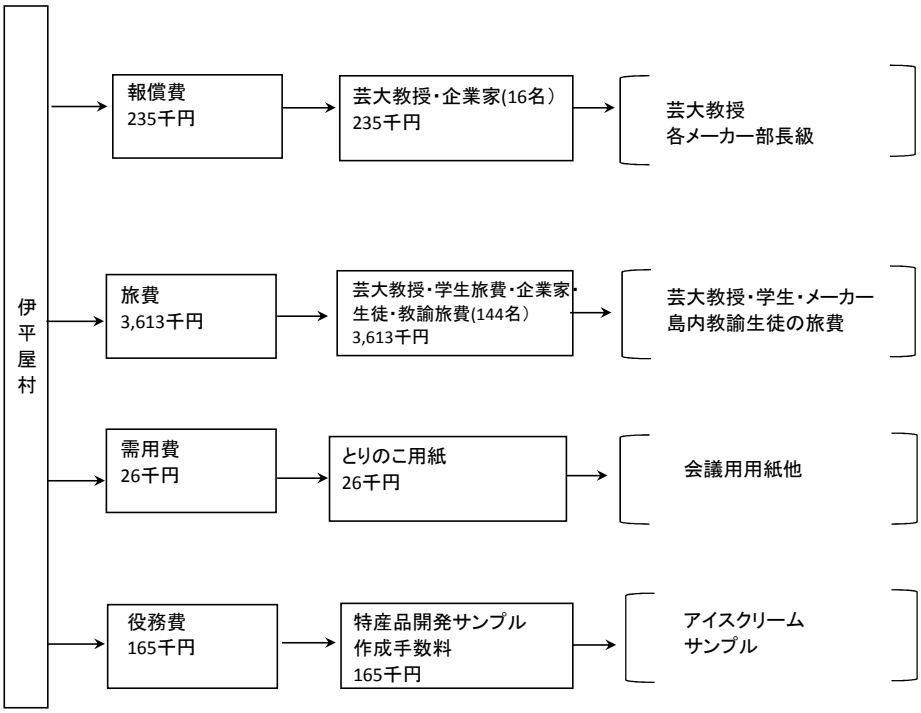
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村内には中学校までしか無く、高等学校進学時には伊平屋村から離れるいわゆる「島発ち」があり、離村後、村に戻り起業を興すいわゆる「起業家」が不在な状況である。そこで地域のことを深く知るために、「特産品の資源となる種」を調査し、村の特産物を開発することにより、起業家マインドの萌芽、島への情愛を育むと同時に、起業家に資する為に必要な、企画力、プレゼン力を高めた。 ・特産品開発後、販促を実施したが、販促の習熟までは時間的ゆとりがなかった	・生徒が制作過程で目標として取り組んだ「3種程度の特産品開発」は制作過程の中で、困難であると判断し、最終的には1種類の特産品が商品として世に出た。次回は1種類に絞って特産品開発に取り組むことにより生徒の負担軽減に取り組む ・次年度は中学二年生のカリキュラムに特産品開発商品を中心とした村内特産品の販売フェアと職場体験を組み込み、製造から販売までを2学年を通して実施し、村の良さを再確認してもらう。

今後の取り組み方針

新中学1年生で新たな特産品開発を実施、新中学二年生で一年時で開発した特産品を販促することにより
村内資源調査→特産品開発→特産品販売並びに本島希望職種への職場体験と職に対する理解度を深める

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,039	4,039	3,231	808	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法は妥当と考える 予算規模は旅費、報償費共に村規程に基づき支出しており適正と考える 使途は真に必要なものを鑑み限定している
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア 教育機会の拡充
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	村外で実施されるスポーツ大会及び交流や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域校の児童生徒等との交流や各種スポーツ大会、交流等による児童生徒の意識の向上やスポーツの技術向上等様々な面で離島の抱える教育的なハンディを克服する。
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,830				
	(b) 予算現額	1,593				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,237				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,593				
	B. 執行済額	2,422				
	うち交付金充当額	1,274				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		152.0%				

予算の状況の説明：当初計画より、派遣回数及び派遣延べ人数は上回ったが、実施経費に対象外経費が含まれていたため不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（小学生3回）	目　標	（3回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	11回			
島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（中学生6回）	目　標	（6回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	20回			

達成状況説明：村内児童生徒を対象に、島外イベント、スポーツ大会、交流学習等への派遣を行った結果、小学生11回、中学生20回の実績により目標回数を上回った。また、島内では体験できない各種派遣事業により、スポーツ大会をとおしてのスキル向上や、大会優勝（小2回、中1回）に寄与するとともに英語スピーチコンテスト等でも上位入賞することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（25年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
村内3校児童・生徒の島外での教育的交流 村外で行われるスポーツ大会及び技術向上を目的としたイベントへの参加することによる児童・生徒の心身等の向上 小学校　：　児童107名	目　標	（0）	（108名）	（　）	（　）	（1回）
	実　績		180名			
村内3校児童・生徒の島外での教育的交流 村外で行われるスポーツ大会及び技術向上を目的としたイベントへの参加することによる児童・生徒の心身等の向上 中学校　：　生徒58名	目　標	（0）	（58名）	（　）	（　）	（1回）
	実　績		178名			

進捗状況説明：・本事業の実施により、児童生徒の技術面、精神面が強化され、スポーツ大会等にて優良な成績を修めることが出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○交流機会の少ない児童生徒への派遣事業により、スポーツでのスキルアップや、試合を通じてのメンタル強化など、事業効果が発現される一方、遠征による生活リズムの乱れが見受けられることから、保護者や指導者を含めた指導、助言が必要となっている。	○本事業の継続的な事業効果を図るため、文武両道の観点から児童生徒はもとより保護者や指導者を含めた協議会を設置し、方策を検討していく。

今後の取り組み方針

○智・徳・体のバランスの取れた児童生徒の育成を支援するため、派遣については事業を精選し、保護者や指導者を含めた共通理解を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,422	1,593	1,274	319	829

伊平屋村
1,593千円

→ 補助
1,593千円

→ 村内児童生徒
1,593千円
（交付対象外経費829千円）

（児童生徒島外派遣等補助金
小学生：10回・延べ人数180人・669千円
中学生：20回・延べ人数178人・924千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は児童生徒の所属する団体であったことから妥当であったと考える。 △：予算については対象外経費を含んでいたが、実績報告にて適切に算定したことから、適正であったと考える。 ○船運賃及び宿泊費以外の経費については受益者が負担したことから妥当であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	幼稚園預かり保育支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9
事業内容	伊平屋島の定住条件を整備するため、幼稚園預かり保育強化として嘱託保育士を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,700	1,750	1,700		
	(b) 予算現額	1,250	1,693	1,729		
	(c) 増減額(b-a)	▲ 450	▲ 57	29		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,250	1,693	1,729		
B. 執行済額		1,250	1,693	1,729		
うち交付金充当額		999	1,354	1,383		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
嘱託保育士の配置:1名	目　標	（　1名　）	（　1名　）	（　1名　）	（　　）
	実　績	1名	1名	1名	

達成状況説明	
	本村、伊平屋幼稚園において平成25年4月から平成26年3月の期間、保育士1名を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
預かり保育対象児童数:6名程度	目　標	（　0名　）	（　5名　）	（　6名　）	（　6名　）	（　10名　）
	実　績		5名	6名	8名	
					（　　）	（　　）

進捗状況説明	
	・8名の預かり保育対象児童に対して預かり保育を実施し、目標を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、預かり保育に対する住民意識が向上し、今後もニーズが高まることが予想されることから、児童の増加による安全対策や、用具の整備が必要になると思われる。	増加する児童数に対応するため、学校現場との密な連携や協力体制を構築する必要があることと、多様化する保護者ニーズに対する事業の検証と対応策について保護者との協議の場を増やしていく必要がある。

今後の取り組み方針

平成27年度も引き続き預かり保育を継続し、対象児童の増加については、適正なスタッフの配置や管理体制について適時検証を行うとともに、保護者ニーズに対応するための遊具や玩具の適正な整備計画を行う。また、保護者を含めた協議会を設置し、情報の共有化と相互理解を深める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,729	1,729	1,383	346	

伊平屋村 1,729千円 → 賃金 1,729千円 → 保育士賃金 1,729千円

（嘱託保育士の配置に係る臨時職員賃金：1名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出費目は保育士賃金であり、保育士資格者を公募し任用したことから妥当であった。 ○予算規模は保育士1名の賃金であり、村条例に基づき算定していることから妥当であると考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	妊婦健診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

妊婦健診の受診促進として、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	2,000	2,496		
	(b) 予算現額	923	2,849	1,881		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,077	849	▲ 615		
	(d) 前年度繰越額	－		0		
	A. 計 (b+d)	923	2,849	1,881		
B. 執行済額		923	2,849	1,881		
うち交付金充当額		738	2,279	1,504		
次年度繰越額		0		0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：当初見込んでいた人数より5人増となったが、1名当たり渡航回数が当初見込みより減少したため予算の減額をした。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
妊婦健診に係る渡航費助成の実施	目　標	（　16名　）	（　助成の実施　）	（　12名　）	（　　）
	実　績	14名	23名	17名	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：今年度の妊婦渡航補助については、当初想定の12名に対し、17名に対し補助を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
妊婦健診に係る渡航費助成：12名	目　標	（　0回　）	（　16名　）	（　12名　）	（　12名　）	（　　）
	実　績		14名	23名	17名	
【参考指標】妊婦平均受診回数	目　標	（　0回　）	（　6回　）	（　10回　）	（　10回　）	（　　）
	実　績		2.4回	6.5回	6.4回	

進捗状況説明：今年度見込みは、妊産婦12名の渡航費助成を予定していたが、5名増の17名に渡航費の助成を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、今まで実費で、島外の産婦人科を受診していた妊婦の皆さんの負担軽減が図られたことによる、若い生産世代への波及が見込まれることから、定住人口の増加に向け出産後の乳児及び育児健診等の助成についても検討する必要がある。	妊婦健診を受診にあたって、妊婦のさらなる安全を確保するため、妊娠後期にあたっては、付添人が必要となるので、その助成についても検討する。

今後の取り組み方針

平成27年度も本事業を継続して実施するとともに、今後は、本事業により波及が見込まれる生産世代が安心して出産、育児等が行える施策を検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,881	1,881	1,504	377	0

伊平屋村
1，881千円
→ 助成金
1，881千円
→ 妊婦検診対象者
1，881千円
（ 妊婦健診渡航費にかかる助成金補助 ）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	受診の確認は親子健康手帳等で確認を行っているので、用途外の使用はないと考えられる。また,予算は、村の旅費規程及び昨年度の実績を基に積算しているため適正となっている。 また、助成を受けるために役場窓口へ申請するため、申請時に併せて保健師による保健指導等も行えることから、妊婦の体調管理等にきめ細かな指導体制がとれる。 本助成金は離島の特殊事情により、受診のため1泊2日で本島に行かなければならず、地域格差を是正するためのものであり、受益者負担は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－③	慢性疾患児童等通院時渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成25年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	専門医療健診の受診促進のため、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,160	2,160			
	(b) 予算現額	189	727			
	(c) 増減額 (b−a)	▲ 1,971	▲ 1,433			
	(d) 前年度繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	189	727			
B. 執行済額		189	727			
うち交付金充当額		151	581			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		定期的な専門医への受診の必要な児童及び保護者の渡航費助成として、当初見込んだ数よりは少なかったが6名の利用があった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況			
		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度
慢性疾患児童頭通院時渡航費助成の実施	目　標	（　0回　）	（　8名　）	（　助成の実施　）	（　　）
	実　績		1名	6名	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	当初計画では、8名×12回を想定していたが、実績では6名が利用し平均5.5回の渡航通院した。。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
慢性疾患児童等通院時渡航費助成：8名（親同伴）×12回	目　標	（　0回　）	（　8名　）	（　8名×12回　）	（　　）	（　　）
	実　績		1名	6名×5.5回		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	当初予定では8名の利用を想定していたが、小児慢性特定疾患1名とその他慢性疾患5名の6名が利用し、平均5.5回の渡航通院を行い助成を受けた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、島外の専門医療機関での通院を余儀なくされていた者の負担軽減が図られたことにより、必要な医療を適切に受けることができるようになった。しかし、申請者が小児慢性特定疾患児の認定を受けたものだけにとどまったことにより大幅な減となった。	適切な医療を受けることの理解を深め、中学卒業と同時に親もとを離れる子どもたちを完治させることに努める。 そのため、当該事業を推進するにあたり、当該事業の広報誌への掲載、及び乳幼児健診等での保護者への周知、並びに学校保健関係者、村内医療機関への協力を呼び掛ける。

今後の取り組み方針

適切な医療を受けることへの理解を深め、当該事業を推進し、継続的な実施を行う。また、本事業の効果的な推進にあたっては、広報誌への掲載、乳幼児健診等での周知、学校保健関係者並びに村内医療機関への協力を呼び掛ける。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
727	727	581	146	0

伊平屋村 727千円 → 助成金 727千円 → 慢性疾患児童等通院対象者

（小児慢性特定疾患等の治療のための通院に係る渡航費助成）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	受診の確認は医療機関の領収書で確認を行っているので、用途外の使用はないと考えられる。予算規模は適正と考えるが、利用者への理解、当該事業の周知徹底が図られていなかったことによる利用者の減が考えられるため、今後は周知徹底を図るとともに、利用者への普及啓蒙を行う。 本助成金は離島の特殊事情により、治療のため1泊2日で本島の専門医療機関に行かなければならず、地域格差を是正するためのものであり、受益者負担は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－④	地域自立支援推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(7)－ア 県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9
事業内容	行政と住民が協働して行う島づくりの体制を構築するため、住民主導型のワークショップの開催や、課題抽出・解決策の検討、行動計画の策定を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	2,500			
	(b) 予算現額	2,837	1,844			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,163	▲ 656			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	2,837	1,844			
B. 執行済額		2,837	1,844			
うち交付金充当額		2,269	1,475			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・地域住民を対象講演会及び先進地調査のコーディネートを民間コンサルタントへ委託を行い、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算減額は、ワークショップ開催を次年度したためである				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
地域自立成功先進地視察（課題抽出・解決策の検討・行動計画評価）	目　標	（　計画策定　）	（　先進地視察　）	（　）	（　）
	実　績	計画策定	先進地調査講演会		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：当初は、行政と住民が協働して行う島づくりの体制を構築するため、住民主導型のワークショップの開催や、課題抽出・解決策の検討、行動計画の策定を行うこととしていたが、中心となる方々の意識向上を図るため、地域協同事業に取り組む方を講師に招聘し、地域婦人会を主な対象とした講演会を開催。また、地域自立、地域協同の中心となる方を選定し、希薄化が懸念される地域住民による「自助・共助・公助」の役割について先進地の事例調査を実施した。。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
地域自立支援推進実施計画策定	目　標	（0回（0回））	（計画策定）	（計画策定）	（　）	（　）
	実　績		計画策定	先進地調査講演会		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：計画策定により地域住民の行動計画や地域の諸計画の遂行が具体化されることにより住民の地域行事等への参加が促された。また、今まで、地域行事への参加率の悪かった住民にも地域内でのコミュニケ-ションが図られるようになり参加率も向上してきた。ワークショップや行動計画策定等は次年度に実施することにした。

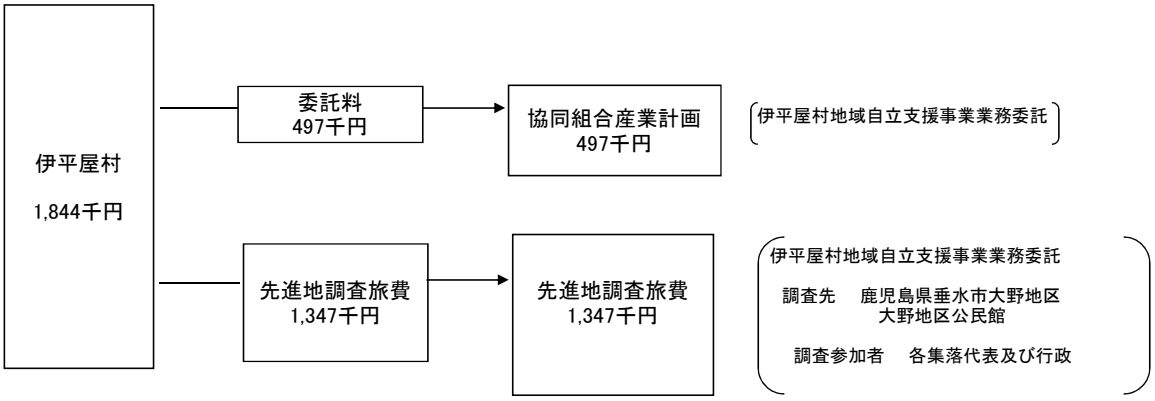
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度は、地域の人材育成のため、本事業の取組の先進地を調査する事により、本地域での取り組むべき課題等を認識させる事とした。 ①地域内での住民同士の確執等によるコミュニケーションの欠落 ②老人世帯の増加による地域ボランティアへの参加困難 ③行政サービスの向上により今まで地域で行ってきた行事及び作業等への意識変化 ④基幹産業の衰退と、機械化省力化の推進により協同作業が激減し、その事による地住民の連帯意識の衰退。	次年度以降は、本年度の成果を踏まえ地域の課題解決のためめ以下の対策を講じることとする。 ①世代別、団体別（子ども・青年・婦人・壮年・老人会等）によるワークショップの開催や、研修、講演会等の実施と地域リーダーの育成 ②世代間交流を推進するための集落行事の再興 ③男女共同参画を推進するための居場所づくりや役割分担の設定 ④集落単位による自治機能の強化 ⑤コミュニティビジネス等目標とテーマを明確化した協働作業、協働事業の実施 ⑥集落総動員による伝統文化、伝統祭祀の復興

今後の取り組み方針

今年度は、地域のリーダーとなる人材の意識改革を図のため、先進地の調査と先駆者を招聘し講演会を開催した。今後の事業展開として、各集落のが地域の課題を自己のものと捉え、主体的に課題解決と行動評価を行えるような体制づくりを支援する。 具体的には各集落が主導的に行う「集落再生計画」の策定を専門家や行政が支援するとともに、取組への企画運営について助言を行う。 関連する他施策との相乗効果を図るため、総体的な協議の場を設置し、情報共有化を進めるとともに各種研修やワークショップ、講演会等の開催を支援する。 行政にたよる地域性の改革をするため、行政に頼らない自治運営をする先進地視察や先進地から講師を招き意識の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,844	1,844	1,475	369	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○計画策定業務については、本村の第4次総合計画の策定を行い地域住民の信頼及び地域の雄実情を深く理解する協同組合産業計画と随意契約を締結した。 ○予算規模は、事業内容と合わせ適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑤	集落環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(7)－ア 県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２５～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9
事業内容	地域住民による自助、共助、公助の仕組みづくりを推進するため、集落環境整備計画の策定と協働による主体的な取り組みについて助成を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000			
	(b) 予算現額	3,000	5,000			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,000	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	3,000	5,000			
	B. 執行済額	3,000	5,000			
	うち交付金充当額	2,400	4,000			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率（%）(B/A)	100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：当初計画どおり1地区1，000千円で5地区に助成。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
集落環境整計画調査（5集落） 集落環境整備（5集落）	目　標	（5集落）	（5集落）	（　）	（　）
	実　績	5集落	5集落		
集落環境整備	目　標	（5集落）	（5集落）		
	実　績	5集落	5集落		

達成状況説明：各集落で環境整備調査を行い整備計画を作成した。しかし、整備箇所の優先順位等集落内での協議に不足の時間を要し実施が遅れた。整備計画では各集落5カ所程度の整備を見込でいたが、2カ所から3カ所の整備になった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
集落環境整備計画調査（5集落）の完了 集落環境整備（5集落）の完了	目　標	（0）	（5集落）	（5集落）	（　）	（　）
	実　績		5集落	5集落		
			（　）	（　）	（　）	（　）

進捗状況説明：今年度整備した箇所については、各集落の環境美化及び観光に寄与する拝書等の安全対策としてハブ等の危険生物が出没する箇所の周辺整備等を中心に実施、それに伴い観光客等を含む地域住民の安全、安心の確保が図られた。

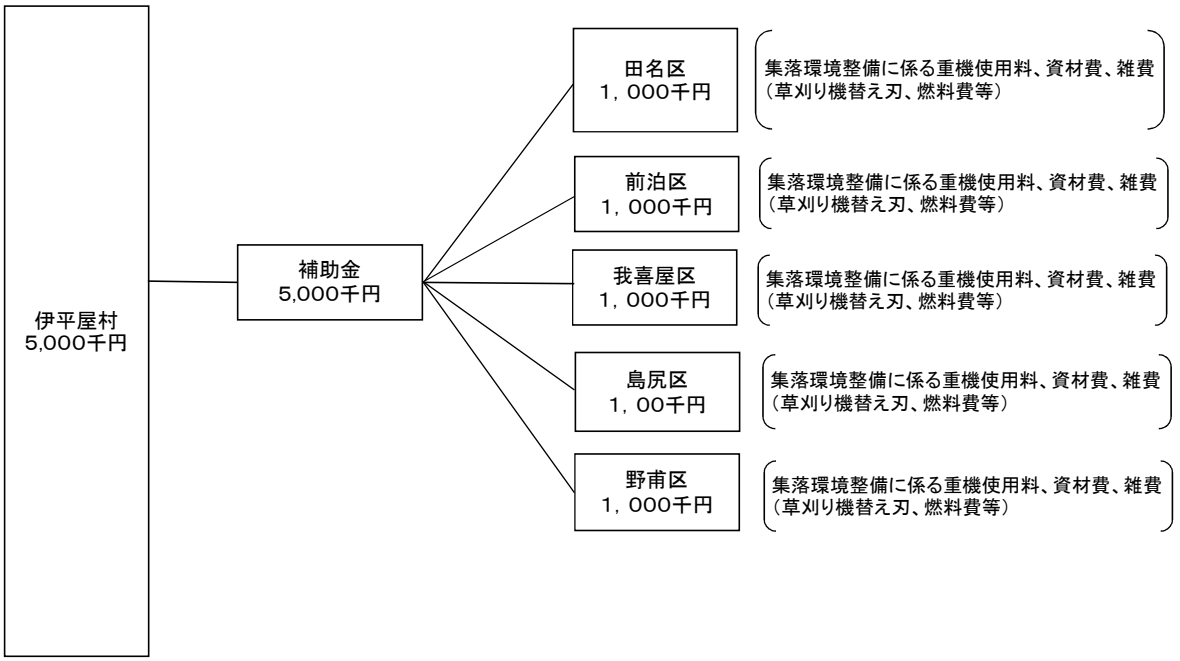
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	環境整備箇所の調査で年間整備計画を策定し実施する計画であったが、計画書の作成に遅れが生じ、環境整備に影響がでた。また、住民な参加を促す活動がうまくいかず住民の参加が伸びなかった。しかし、進捗状況でも説明した、危険箇所等の環境整備で地域住民の意識の変化は見られた。	今年度の集落環境整備については、地域住民の協働、自助努力の意識がまだ薄いことから次年度へ向けて、整備計画の充実、地域住民が参加しやすい地域コミュニティの向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

今年度は事業初年度ということもあり、各集落の環境整備につては地域住民の協働の意識が薄く参加が少ない状況であった。しかし、次年度はさらに整備計画の充実を図り、地域コミュニティの向上による地域活性化及び集落環境づくりを推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	4,000	1,000	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模は、事業内容と合わせ適正である。 ○受益者負担については、各集落において補助金以上の事業設定がなされており、補助金での対応分以外を集落で負担していることで妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－⑥	自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－ア 交通・生活コストの低減
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、特に移動の大きな支障及び住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減するため、その一部を助成する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13,333	22,857	38,573		
	(b) 予算現額	4,235	37,902	49,525		
	(c) 増減額 (b−a)	▲ 9,098	15,045	10,952		
	(d) 繰越額	―	―	―		
	A. 計 (b+d)	4,235	37,902	49,525		
B. 執行済額		4,235	37,902	47,568		
うち交付金充当額		3,388	30,321	38,054		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	96%		

予算の状況の説明

当初想定していた自動車航送台数を大幅に上回ったため、増額補正した。なお、当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自動車航送運賃の低減	目　標	（　支援実施　）	（　支援実施　）	（　運賃の低減　）	（　　）
	実　績	支援実施	支援実施	支援実施	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

沖縄本島と島を結ぶ唯一の交通手段であるフェリーにおいて、車両航送運賃の負担軽減を行った。高い交通コストの軽減を実施することで離島特有の経済的負担の軽減が図られ、定住条件の改善がなされた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
自動車構造運賃の低減：H26年度　月245台（H24年度実績値　106台）	目　標	（　　）	（　165台　）	（　245台　）	（　245台　）	（　　）
	実　績		213.5台	314.3台	380.8台	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

医療機関への通院、冠婚葬祭や教育関係の大会等の諸行事における沖縄本島内での移動手段の確保、車検整備等における自動車航送運賃の低減化を図ることで、本島における交通費の削減や離島特有の経済的負担を軽減できた。平成26年4月1日より新造船「フェリーいへやⅢ」が就航し、車両航送可能台数が30台ほど増えたため、目標を上回ることが出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	自動車航送運賃を軽減することによって、これまでレンタカーや、本島と伊平屋島とで車両を2台保持するなど、本島内での移動手段の確保に経済的負担を強いられていたが、本事業により本島への行き来が気軽に出来るようになり、定住環境の改善につながった。しかし、車両航送が増えたため、予約不可になるなど車両を航送出来ない利用者が少なからず出てきている。	現時点では車両航送可能台数を増やす以外改善策が無いため、早めの予約を促し、日にちをずらすなど、車両航送の多い週末を避ける等周知し改善していく。

今後の取り組み方針

村内各売店や事業所等に車両航送申込書を設置し、事前に記入してもらうことで、切符購入時の待ち時間の解消や乗船時の混雑等は改善されつつある。
今後も継続した周知活動を実施することで、本島での移動手段の確保が出来るよう支援し、経済的負担を軽減することで定住条件の改善を目指していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,525	47,568	38,054	9,514	

伊平屋村 47,568千円 → 補助金 47,568千円 → 伊平屋村船舶運航事業者 47,568千円 → （住民への自動車航送運賃低減相当額に係る補助金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性があり妥当である。 ○予算規模については、増額補正があったものの概ね妥当である。 ○受益者負担については、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の負担率を参考にしている（36．4%）ため妥当である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑧	高齢者福祉施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－ア 高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

島内に一カ所しかない高齢者福祉施設の需要増加によるデイサービス時のトイレや洗面等の待ち時間を解消するため既存施設の改修を行う。また、ショートステイや緊急避難時の在宅介護者の受入に対応するため、既存事務所や倉庫の増改築により、8名分の増床を行うとともに事務所及び相談室を新たに増設する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	49,167	129,803	36,170		
	(b) 予算現額	49,169	82,938	44,693		
	(c) 増減額 (b-a)	2	▲ 46,865	8,523		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	49,169	82,938	44,693		
B. 執行済額		49,169	82,938	44,693		
うち交付金充当額		39,335	66,387	35,754		
次年度繰越額		－	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：平成25年度繰越予算で実施する建築工事に伴い、平成26年度は電気設備工事・機械設備工事・消防設備工事・備品購入を実施し年度内完了ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	年度
施設機能強化工事	目　標	（建築工事・施工監理・物品購入）	（施設機能強化工事）	（　）	（　）
	実　績	建設工事・施工監理・物品購入	施設機能強化工事		

達成状況説明：平成25年度繰越予算建築工事に伴う、電気設備工事・機械設備工事・消防設備工・物品購入を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
施設機能強化工事の完了	目　標	（0）	（一式）	（工事の完了）	（　）	（　）
	実　績		一式	工事の完了		
					（　）	（　）

進捗状況説明：ショートスティや緊急避難時の在宅介護者の受入が対応可能となり施設利用者の利便性が向上し機能強化が図れた。

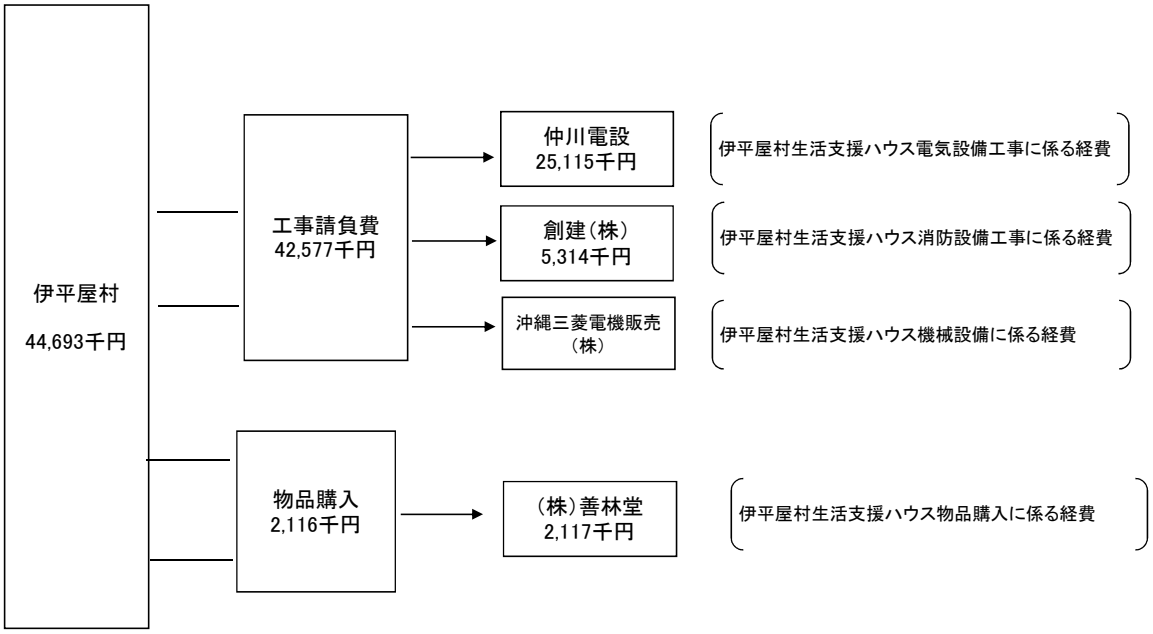
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ショートスティや緊急避難時の在宅介護者の受入が対応可能となり施設利用者の利便性が向上し機能強化が図られ施設利用が促進された。	今年度の整備により課題であったショートスティや緊急避難時の在宅介護者の受入が対応可能となり施設利用者の利便性が向上し機能強化が図られ施設利用が促進された。しかしながら、既存施設では利便性及び効率性が悪い給湯システム及び居住ヶ所のスライディングドアの改善を図り、課題等を解消したい。

今後の取り組み方針

今年度の整備により課題であったショートスティや緊急避難時の在宅介護者の受入が対応可能となり施設利用者の利便性が向上し機能強化が図られ施設利用が促進された。しかしながら、既存施設では利便性及び効率性が悪い給湯システム及び居住ヶ所のスライディングドアの改善が急務となっているため機能強化を図り、利用者の利便性向上に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,693	44,693	35,754	8,939	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正である。予算規模も、見積積算及び施設の規模からも適正である。 ○選定方法は指名競争入札であり、適正に行われている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－⑨	スポーツコンベンション推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

村民の健康増進や生涯スポーツの拠点のみならず、ムーンライトマラソンのメイン会場や県内アマチュア団体の合宿、各プロスポーツ団体との交流イベント、講習会の開催場所として活用している友愛と健康の広場を本村のスポーツコンベンション推進拠点施設と位置づけ、さらに取り組みを強化するため、施設の機能強化を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	50,000				
	(b) 予算現額	57,000				
	(c) 増減額 (b-a)	7,000				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	57,000				
B. 執行済額		57,000				
うち交付金充当額		45,600				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

当初の事業整備計画について、地域住民や利用者からさらなる施設機能の拡充が要望されたことから、実施設計業務を12月補正予算にて増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
村営グランドの風雨対策及び付属施設強風対策整備工事設計等一式	目　標	（　一式　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	一式			
夜間照明施設の強風対策及び運営コスト縮減工事　一式	目　標	（　一式　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	一式			

達成状況説明

実施設計においては、照明施設8基及びグランド、附帯施設として、シャワー、倉庫、トイレ改修、ステージ、トレーニング室の建築設計及び管理道、駐車場等の設計を行い、先行して照明施設5基の整備を行い、第20回伊平屋ムーンライトマラソンの開催に合わせ施設機能の強化を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（25年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
ムーンライトマラソン参加者の増加　参加者1,200名　→　1,400名	目　標	（　0　）	（　1，200名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		0名			
ナイター施設を活用したスポーツイベントの開催 H25 :0回　→　H26:2回	目　標	（　0　）	（　2回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3回			

進捗状況説明

第20回伊平屋ムーンライトマラソンの開催に合わせ、施設整備を行ったが、台風による村営フェリーの欠航により、イベントが中止となったことから、マラソンイベントの参加目標人数を達成出来なかったが、照明施設を活用したスポーツイベントでは、グランドゴルフ2回、ソフトボール大会を1回開催し、目標を上回った。

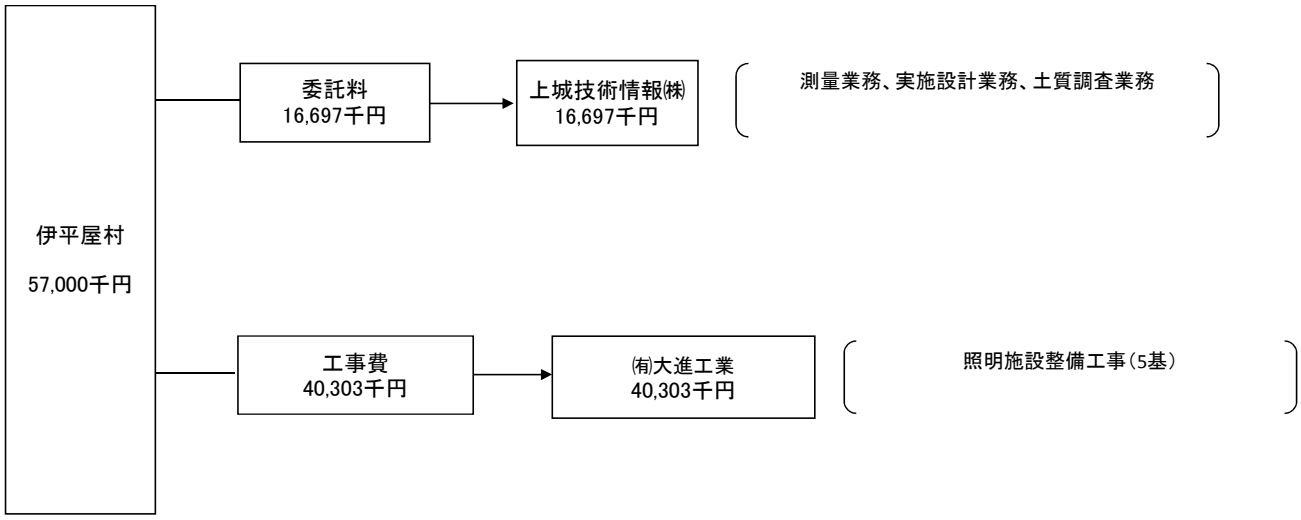
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○グランド工事や建築工事については、人件費及び原材料費が高騰傾向にあることから、入札不調とならないよう、早期の発注に努めるとともに適切な執行管理を行っていく必要がある。 ○施設整備とあわせ、施設の利活用方策について、関係機関、他地域、各種団体等との連携を密にし、行動計画を策定する。	○工事請負業者は施工能力や経営体力の把握に努め、選定するとともに、工事に遅れが生じないよう、適切な工程管理を行う。 ○施設整備後の利活用を見据え、広域的な連携強化と各関係機関との情報を共有化し、推進プロジェクトチームを編成する。

今後の取り組み方針

次年度は、実施設計に基づく施設の機能強化を行い、スポーツコンベンションの推進と他団体、他地域と連携した集客イベントの開催や、プロ、アマを含めた合宿誘致のプロモーションを行うなど、スポーツをとおした地域活性化を図って行く。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,000	57,000	45,600	11,400	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算については当初額より増額したが、沖縄県土木工事等積算基準及び実施単価に基づき積算したことから適正であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑩	伊平屋村火葬場機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－３－（11）－（イ） 離島における定住条件の整備
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成２６～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－９
事業内容	本村の火葬場は整備後24年が経過し老朽化が進んでおり、斎場としてのスペースが無く、トイレ・待合室などもバリアフリーとなっていない。そのため、葬儀に係る住民負担の軽減と定住条件の向上に向け、火葬場の機能強化の為の改修及び増築を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,000				
	(b) 予算現額	26,162				
	(c) 増減額 (b-a)	1,162				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	26,162				
B. 執行済額		19,642				
うち交付金充当額		15,712				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		75.1%				

予算の状況の説明：予算執行率は75.1%であるが、入札契約事務に伴う不用額が発生したためであり、当初計画していた事業はすべて実施しているので、適正である。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
施設改修等設計業務、火葬炉更新工事	目　標	実施設計業務 （火葬炉更新工事）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計業務 火葬炉更新工事			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：施設改修等設計業務完了及び火葬場炉更新工事の完了

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
施設改修等設計業務の完了 火葬炉改修工事の完了	目　標	（　）	（設計業務・改修工事の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		一式 1基			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：施設改修等設計業務完了及び火葬場炉更新工事の完了

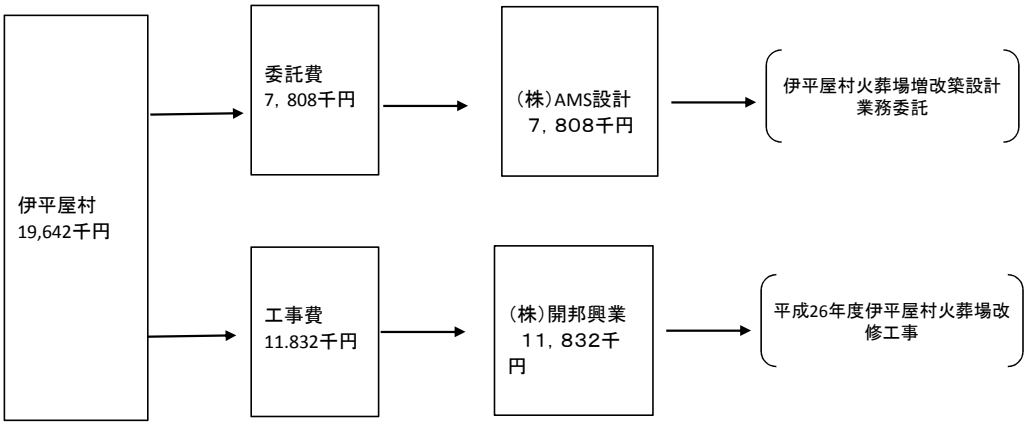
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・既存火葬場は、整備後24年が経過しているため、老朽化が進行し火葬炉の耐熱煉瓦やバーナー等が劣化し更新を迫られていた。 ・平成26年度は、老朽化した火葬炉及び周辺機器の更新を行った。また、バリヤフリー化等利用者負担の軽減を図るための施設整備を図るため、施設整備設計業務を発注した。	・トイレや待合室等の設備がバリアフリー化がされていないため、高齢者や体の不自由な利用者の負担が大きいため、施設の改修を図る筆余がある。 ・

今後の取り組み方針

H27：火葬場施設改修工事及び工事監理業務　整備された火葬場の活用により住民負担の軽減を図るとともに、今後も定住条件整備のための施策を推進し、定住条件の向上に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,642	19,642	15,712	3,930	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算については当初額より増額したが、沖縄県土木工事等積算基準及び実施単価に基づき積算したことから適正であったと考える。 ○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	⑤-1	伊平屋村救急対応整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）
事業内容	緊急時の医療機関（診療所）への緊急搬送を迅速に行うため、緊急搬送車両等を整備する。また、台風や季節風の塩害による腐食防止、飛来物等にる車両の破損から車両を守るため、保管庫を整備する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	12,000			
	(b) 予算現額	7,980	12,000			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 20	0			
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,980	12,000			
B. 執行済額		7,980	11,898			
うち交付金充当額		6,384	9,518			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.2%			
予算の状況の説明		執行率99.2%であり、当初予定していた、救急対応整備事業を予定どおり実施した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
設計委託業務一式 緊急搬送車両用保管庫整備工事　一式	目　標	（　1台　）	（設計管理業務 緊急車両保管庫整備工事 一式）	（　）	（　）
	実　績	1台	設計管理業務 緊急車両保管庫1棟		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：緊急搬送車両用保管庫設計委託、緊急搬送車両用保管庫の整備を完了した

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
設計委託業務の完了 緊急搬送者用保管庫整備工事の完了	目　標	（　）	（　1台　）	（業務・工事の完了）	（　）	（　）
	実　績		1台	1棟		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：。台風時等における塩害や飛来物から車両の保護が図られることにより,車両の機能維持が長期間に渡り可能となった。

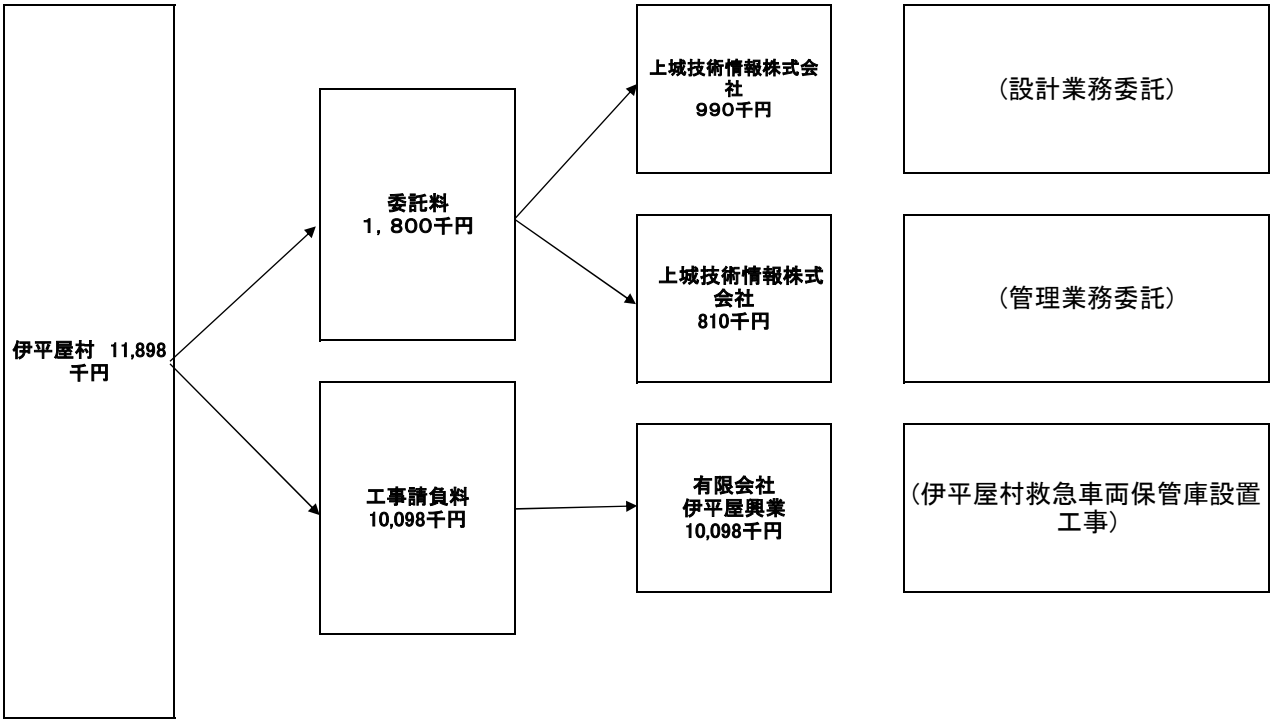
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	住民の生命、身体を守るため救急力の強化が必要だったため、救急車車輌倉庫設置工事を行った。	今回救急車車輌倉庫設置工事を行う事により、伊平屋村の救急力の強化が図られた。今後も住民の現状をふまえ更なる救急力の強化に努めていく。

今後の取り組み方針

平成25年度の救急搬送車の購入及び今年度の救急搬送車両保管庫が完成したことにより救急搬送対応能力が向上した。今後は消防団等救急対人材の強化育成を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,898	11,898	9,518	2,380	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事発注は、指名入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は事業費の5%以内であり、適正であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については完成検査等を実施しており、目的に即し、必要事項を満たしていると考えている。